

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。能登半島地震の影響もあり、県教育文化会館を会場として使わせていただいています。今後も変更がある場合がありますので、

参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

07 月 19 日 (第 3 土曜日) 第 293 回例会 13:30
富山市舟橋北町 7-1 富山県教育文化会館 502 号研修室
08 月 23 日 (第 4 土曜日) 第 294 回例会 13:30 富山県教育文化会館 502 号研修室
09 月 20 日 (第 3 土曜日) 第 295 回例会 13:30 富山県教育文化会館 502 号研修室
10 月 18 日 (第 3 土曜日) 第 296 回例会 13:00 富山県教育文化会館 501 号研修室

講演会 講師はジャーナリスト 池上正樹さんです。

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

駐車場について … 会館近く北東側に会館の駐車場があります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所、福祉総合相談センター等で相談を
しましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>

本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

♪ 6 月例会報告 ♪

日 時: 6 月 21 (土) 13:30~15:40 富山県教育文化会館 502 号室

参加者: 18 名 (男性 11 名 {内体験者 3 名}、女性 7 名 {内体験者 1 名}) のご参加がありました。

例会の始めに、H さんのハーモニカ演奏にあわせ、『たなばたさま』『かたつむり』『靴が鳴る』3 曲を皆でなつかしく歌いました。

I あいさつと諸連絡

今までにない 6 月の暑さが続いている中、ご参加有難うございます。

今後の例会の予定として、7 月 19 日の例会では、『社会福祉士事務所』代表の U さんのミニ講演を予定しています。

10 月 18 日の例会では、富山県から助成金をいただき、「高岡つくしの会」と共同で、ジャーナリストの池上正樹さん(東京都在住)をお招きし、講演を含む合同例会を計画中です。詳細は、7 月以降の例会や会報でお伝えします。今日は、会員の S さんにミニ講演をお願いしています。

II ミニ講演

『なぜ? ひきこもりの人に経済的支援がないのか!?』

【講師】 S さん(会員)

<お話の要約>

ひきこもりになるきっかけ: 二つの流れ: 不登校と就労があり、今回は不登校問題と不登校その後(ひきこもり)のケースを話します。

【プロローグ（前置き）】

ABCという三人の人が、パワハラ（組織内虐待）が原因で「退職」。この三人のケース：Aさんは労災認定再就職・Bさんは障害年金受給週2～3回外出・Cさんは無給で自室にひきこもりの状態に。

Cさんには、生存経済基盤さえない。ある方になぜかと質問したら、「経済的支援が、社会が理解してくれるか？」との答えでした。なぜ社会の理解が難しいのか？私の今の問題意識です。

1 不登校になる原因について

教育機会確保法では、集団生活への心理的な負担が原因で就学が困難にあるものとし、原因は児童生徒側に求めています。現行の教育に問題はないのか、早急に見直しも含め検討して欲しい。

2 海外的視点や海外データ比較から見える日本の子どもについて

国連の子ども権利委員会は、「過度に競争的な教育制度」がある。「不登校の数が、看過できない数にのぼっていることを懸念する」としています。ユニセフの今年の調査結果、日本の子どもの精神的幸福度は、36国中、32位でした。

3 日本の教育制度について

義務教育で等しい授業を受ける。現状は、受験制度により子ども間で成績を競わせて、偏差値で大学等につながる仕組み。

競争しないことを基本に置いた国（フィンランド）の教育は、全ての子どもが、等しく理解することでテストや塾がないが学力は世界トップクラスになっています。

4 講演者の疑問とする点

学力重視を目的に「教育に競争原理」を取り入れそこで生じるプレッシャー・ストレスの忌避が「不登校」という現象にになって出ている。なぜ、教育制度に目を向けられないのか、疑問とするところです。

5 不登校のその後について

ひきこもり状態だけが長期化していても、何の経済的な支援はありません。

【エピローグ（結末）】

「ひきこもり」、「不登校」は本人に原因があるのではなく、競争的教育制度が原因でのものでした。教育制度の被害者に、なぜ、「8050」年齢になっても、経済的な支援がないのか分かりません。私がこだわるのは、経済的支援は生存支援だということです。ひきこもりの人への支援の基盤に「経済的支援（所得補償）」を置いて欲しいと思っています。

<質問・感想>

- ・今まで、このような考え方はして来なかったし、聞いたこともなかったです。今回のお話は、自分なりに考えてみたいと思います。
- ・不登校は、自分を守るための選択肢の一つだと思っています。
- ・学校教育は変わらざるをえない。行政・教師他子ども自身が選べる。今はフリースクールに通っても高卒証書は貰えない。一部学校では法人化の動きがあり、変わりつつあります。
- ・減税面より、経済支援が必要。
- ・障害年金受給資格のハードルが高くなった。家族だけではクリア出来なく、諦めることに。ケースワーカーの証明書などが必要となっています。
- ・今の社会は、相談支援ばかり出て来る。土台に経済的支援がないと、一歩出て行けないものです。
- ・大地の会は、自助会です。相談所へ行ってもうまく行かなかった方、会に声をかけて下されば、専門家にも相談しながら、お力になりたいと思っています。

Ⅲ グループ交流



A班（8名） 今、現況について

- ・外に出すことに注目していたが、あまり考えなくなっから子と一緒に一度桜を見に行った。すごく綺麗で子ども感動した。以来、少しずつ紫陽花を見たり、写真を見たりと楽しみ方が変わってきた。
- ・前と変わらない。父親と家の中ですれ違いが多い。男同士上手い出来ない。
- ・悩んでいる。父親と話さないが父親のいないところではやってあげよう、としている。
- ・ここでこうやって皆さんと、ご縁があってお話出来る事がまた明日から頑張れる力になる。親御さんの居場所もとても大切だと思う。
- ・離れてくらしていてあまり変わらない。今日の前半の話を聞いていて子が学校でうまくいかなかった事を思い出した。
- ・(当事者)今は就労や居場所に行って自己肯定感を保っている。スーパーに行くなど、なるべく歩くようにし

ている。

→1回でも行けている事が素晴らしい。そんなお話を聞けると希望が持てる。

→居場所はとても大切だと思う。安心して過ごせる場所を私もいくつか持っている。

- ・(当事者)3月いっぱい働いて休憩中。家事は出来ている。
→休憩も大切だし、家事をしている事もすごいと思う。
- ・ここに来て、子がやってくれる事を見つけてありがたいと言うようになり、家の雰囲気が変わってきた。
- ・できていないことではなく、できている事を見つけると子が家でやっている事がたくさん見つかった。
- ・この会に来て、親御さんが少し離れて見つめ、穏やかになるとお子さんにもとても大切な事だと思う。

B班(8名) 8050他全般について

家庭内での交流について、経験を出し合い、思いを話し合いました。

- ・子は県外へ一緒に行くのを喜んでいて。遠方からの帰路は、ずっと話してくれたのを覚えている。
- ・(経験から)親が子に理想論や命令口調で話すのは“だめだ!”と感じた。
- ・時々、親子でラーメン店巡りをしたことが親子の距離が縮まるきっかけになったようだ。一緒に食事しているときに、思いを語ってくれた。(本人の気持ちを最優先にし、親は聴くことに集中した。)
言葉(と心)のキャッチボールできる状態をどう作るかが大切だと感じた。
- ・親の思いの表現を3割に抑えておけばよいのに、7割になりがちだ。
- ・(親が)子離れをする準備をしなきゃと思い始めた。



IV その他

- 1 例会では、十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど日常のあゆみ;

体験発表をしてみませんか?約20分間程度を予定しています。

- 2 投稿欄について

会員の皆様から、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00 (要予約)

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

V 高岡つくしの会より(2003年設立)

7月 月例会 7月13日(日)高岡市博労公民館 1:30より

おとぎの森例会 7月9日(水) 7月26日(土) おとぎの森子どもの家 2:00～4:00

8月 月例会 8月10日(日)高岡市博労公民館 1:30より

※おとぎの森例会は8月は開催しません。

VI 書籍・論文の紹介 『SHIP!』創刊号2025.4

(一社)SHIP ひきこもりと共生社会を考えるネットワーク

「(一社)SHIP・・・」は、KHJ 全国家族会の前副理事長の池上正樹さん、前事務局長の上田理香さんが、「ひきこもり」を経験した方たちや家族と希望の持てる、対話のある社会に向け、共に漕ぎ出そうと立ち上げ、季刊誌『SHIP!』が創刊されました。

“巻頭言：見えなかったもの、失われた声に光をあてる”は、「ひきこもり146万人。この社会はどこに向かっていくのだろうか。その道筋は一人ひとり違う。正解はないが、私たちは考え続けたい。・・・私たちは、未来の大海原に一筋の光を照らす「SHIP!」でありたい。」と結ばれています。